

# 薬剤管理指導チームのMission

「チーム医療の実践に必要な各領域のエビデンスを駆使し、熟達したコミュニケーションスキルで患者と相対する。薬物療法において率先してリーダーシップを発揮し治療方針決定に関わり、薬剤師が積極的に協力することで、より患者満足度の高い医療サービスの提供を目指す」

# 薬剤管理指導チームのVision

「臨床・研究・教育、各分野でリーダーシップが  
発揮出来るトップレベルの薬剤師による医療  
サービスの提供を通じて世界最高峰のがん  
センターを目指す」

# 血液内科・造血幹細胞移植科

1. 血液腫瘍 (白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫) の種類と特徴が説明できる。
2. 白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫の疫学が説明できる。
3. 白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫の臨床症状に対応するための処置について説明できる。
4. 白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫に用いられるレジメンの内容が説明できる。
5. 化学療法レジメンごとの適格基準および減量基準等が説明でき、患者毎に適切な投与量を確認できる。
6. 固形腫瘍との治療の違いを理解し、非ホジキンリンパ腫 (特にDLBCL) およびホジキンリンパ腫の1次治療、2次治療について説明できる。
7. 造血幹細胞移植の治療原理について説明できる。
8. 造血幹細胞移植の種類と移植ソースの特徴と相違点について説明できる。
9. 造血幹細胞移植後の一般的な経過と起こりえる合併症について説明できる。
10. 化学療法による副作用、移植後合併症の症状およびその対応 (予防・治療) について説明できる。
11. 1.~10.を踏まえ、患者へ平易な言葉で分かりやすく説明できる。

# 血液内科・造血幹細胞移植科

12. ラウンドシートの作成を通じて、両診療科の全入院患者における薬学的問題点および付随したモニター項目を適切に抽出することができる。
13. 担当患者について、薬学的アセスメントを行い、最適な薬学ケアプランを提案することができる。
14. 自ら抽出した問題点を解決に向けて、他職種と連携し取り組むことができる。
15. 担当患者について、医療者が理解、活用できるカルテ記載 (薬剤管理指導記録) を SOAP形式で記録することができる
16. 求めに応じてPK/PD理論による処方設計を行い、処方提案をすることができる。  
(免疫抑制剤、抗菌薬、抗真菌薬、抗てんかん薬 等)
17. 以下に示す薬剤管理指件数が実施できる
  - ローテーションレジデント・・・算定件数 30件/月、算定なし件数 70件/月
  - 固定レジデント・・・・・・・・算定件数 60件/月、算定なし件数 100件/月
18. 指導薬剤師 (スタッフ) への報告、連絡、及び相談をルールに基づき適切に行う。

# 呼吸器内科

1. 肺癌の疫学について理解する。
2. 肺癌の臨床症状について理解する。
3. 肺癌の診断に必要な検査について理解する。
4. 肺癌の病期別の治療方針について理解する。
5. 肺癌の経過、合併症について理解する。
6. 肺癌の予後について理解する。
7. 標準的化学療法について理解し、投与量やスケジュール、支持療法などの確認ができる。また、主な副作用と対策について説明できる。
8. 分子標的治療薬について理解し、用法用量や支持療法などの確認ができる。また、主な副作用と対策について説明できる。
9. 肺癌の薬物療法について適切な服薬指導ができる。
10. カルテや服薬指導などから患者の問題点を把握し、適切に対応できる。
11. 薬剤管理指導料算定50件/月を目標とする (最低25件/月)。

# 消化管内科

1. 食道癌、胃癌、大腸癌の疫学が理解できる。
2. 食道癌、胃癌、大腸癌の発生部位と関連した臨床症状が理解できる。
3. 食道癌、胃癌、大腸癌の診断・治療導入時から終末までの一連の流れ (Natural Course) が理解できる。
4. 食道癌、胃癌、大腸癌の病期別の治療方針が理解でき、標準治療が説明できる。
5. 食道癌、胃癌、大腸癌の臨床症状に対応するための処置について理解できる。
6. 食道癌、胃癌、大腸癌のレジメン内容を理解し適正な投与量を確認できる。
7. 上記1.～6.を踏まえ、患者へ平易な言葉で解りやすく説明できる。
8. 化学療法以外の支持療法を含めて薬剤の適切な使用法を確認できる。
9. 患者の問題点を抽出し最優先事項を判断し優先順位にそった対応ができる。
10. 患者の状況についてカルテおよび患者本人もしくは他職種から情報収集でき、薬学的観点からのアセスメントができる。
11. POSに基づくカルテ記載ができ、上記10.に基づくプランを具体的に提示することができる。
12. 入院治療から外来治療への移行をサポートすることができる。
13. 薬剤管理指導料1ヶ月平均50件以上、退院時薬剤情報管理指導料1ヶ月平均15件以上を達成する。

# 肝胆膵内科

1. 初年度に行った勉強会の内容を理解し、薬学的介入と評価を行える。
2. 肝細胞がん、胆道がん、膵がんの疫学、起こりうる臨床症状や合併症、治療方針がわかる。
3. 肝・胆・膵がんで用いる標準的なレジメンとその副作用について理解し、患者に説明することができる。
4. 肝・胆・膵がんのレジメン内容を理解し適正な投与量を確認できる。
5. 各レジメンにおける標準的な支持療法についてガイドラインを理解し実地に活用できる。
6. 治療を行う上で、必要な事務的運用について把握する (インスリンの処方仕方、適応外使用、全例登録、患者説明資材の種類など)。
7. すばやく患者情報を収集し、外来指導を実施することができる。
8. 処置について理解し、説明することができる (PTCD, RFA, TACE, EUS-FNA, ERCP等)。
9. 肝・胆・膵がんの診断・治療導入時から終末までの一連の流れを理解することができる (転院や在宅移行の準備)。
10. 算定件数40件/月、非算定 + 外来⇒60件/月 を目標とする。

# 乳腺・腫瘍内科

1. 乳腺・腫瘍内科の当院オリジナルのパンフレットの種類を把握している。
2. 乳がん・婦人科がんのレジメンのエビデンスを説明できる。
3. 乳がんの疫学と臨床症状および術後合併症状が説明できる。
4. 乳がんの病期毎の治療法と副作用対策と乳がんの合併症に対する考え方を説明できる。
5. 乳がんの標準的なレジメンとその副作用について理解し患者に説明できる。
6. 乳がんの各レジメンにおける標準的な支持療法についてのガイドラインを理解し実地に活用できる。
7. 乳がんのホルモン療法、放射線療法について説明できる。
8. 薬学的見地から受け持ち患者の薬物治療におけるモニター項目および問題点を抽出できる。
9. 婦人科がんについて発生部位ごとの臨床症状、疫学、原因について説明ができる。
10. 婦人科がんの病期毎の治療法と副作用対策と婦人科がんの合併症に対する考え方を説明できる。
11. 婦人科がんの治療について説明ができる。
12. 外来化学療法における患者指導および経過フォローを迅速に行うことができる。
13. 薬剤管理指導料40件/月以上、退院時薬剤情報管理指導料10件/月以上、外来患者指導件数のべ20件/月以上を最低限の達成目標とする。

# 小児腫瘍科

1. 小児がんの種類 (国際小児がん分類: 主分類) と特徴を説明できる。また、標準的な1次治療について説明することができる。
2. 小児がんに対して頻用される個々の薬剤の特徴と支持療法について説明することができる。また、内分泌障害、将来の成長・発達、二次がんなど、晩期障害のフォローの重要性について理解することができる。
3. 小児に対するがん治療は成人に対する治療とは異なることを理解し、その違いについて説明することができる。
4. 小児がん治療におけるアンメットメディカルニーズの存在を理解する。
5. 患児とその家族それぞれに対して適切な服薬指導を実施することができる。
6. 看護師や子ども療養支援士が行うプレパレーションの必要性を理解する。他職種と連携しながら患者とその家族のニーズに応えることができる。
7. 小児薬用量と小児適応について理解し、処方監査を実施することができる。また、不適切な処方については代替案を提案できる。
8. 子どもの年齢や嗜好、家族の服薬管理への負担を軽減などを考慮し、医師に対して適切な薬剤選択と投与方法を提案できる。

# 骨軟部腫瘍科

1. 骨軟部腫瘍 (悪性骨腫瘍、悪性軟部腫瘍) のWHO分類、各組織型における疫学、臨床症状、予後などの特徴を理解する。
2. 悪性骨腫瘍、悪性軟部腫瘍における各組織型・病期の化学療法、手術、放射線治療の位置づけを理解する。
3. 骨軟部腫瘍における各組織型に対する標準的化学療法について理解し、各レジメンの投与量やスケジュールなどの確認ができる。
4. 骨軟部腫瘍に対して頻用される個々の薬剤の特徴と支持療法について説明することができる。また各種ガイドラインなどを参考に、副作用対策を適切に実践できる。
5. 骨軟部腫瘍に用いる抗がん剤について、患者に適切に服薬指導することができる。
6. 骨軟部腫瘍におけるアンメットメディカルニーズの存在を理解する。
7. 骨軟部腫瘍の外科的治療の流れを理解することができる。また、患肢温存術と切断術の長所と短所を理解することができる。
8. 周術期の薬物療法を理解し、周術期患者に対して薬学的介入が実践できる。
9. 術後の機能障害やボディイメージの変容に伴う苦痛に配慮した介入ができる。

# 脳脊髄腫瘍科

1. 脳腫瘍の疫学について理解する。
2. 脳腫瘍の場所とそれに伴う臨床症状について理解する。
3. 脳腫瘍の診断に必要な検査について理解する。
4. 脳腫瘍の分類 (WHO分類) と治療方針について理解する。
5. 脳腫瘍の経過、合併症について理解する。
6. 脳腫瘍の予後について理解する。
7. 脳腫瘍の標準的化学療法について理解し、投与量、スケジュール、支持療法等の確認ができる。また、主な副作用とその対策について説明できる。
8. カルテや患者面談等から患者の問題点を把握し、適切に対応できる

# 皮膚腫瘍科

1. 皮膚腫瘍の分類について理解する。
2. 皮膚腫瘍における疫学について理解する。
3. 皮膚腫瘍における臨床症状・経過・予後・合併症について理解する。
4. 皮膚腫瘍の診断に必要な検査について理解する。
5. 皮膚腫瘍における治療体系を理解した上で説明することができる。
6. 皮膚腫瘍における術式、周術期管理、術後合併症について理解する。
7. 皮膚腫瘍領域における標準的化学療法と支持療法について理解した上で説明することができる。
8. 皮膚腫瘍に用いられる抗腫瘍薬に特徴的な副作用について理解し、その管理を含めて説明することができる。
9. 患者の薬学的問題点を抽出し、適切なアセスメントを行える。また、自己のアセスメントをもとに他職種と協議して、問題点に対して連携して取り組むことができる。
10. 担当する患者の状況、薬学的問題点を簡潔かつ適切にプレゼンテーションできる。

# 泌尿器・後腹膜腫瘍科

1. 泌尿器領域がんの種類 (胚細胞腫瘍・尿路上皮がん・前立腺がん・腎細胞がん) と特徴 (疫学・臨床症状・予後など含む) を理解する。
2. 泌尿器領域がんの診断に必要な検査について理解する。
3. 泌尿器領域がんにおける術式、周術期管理、術後合併症について理解する。
4. 泌尿器領域がんの経過、合併症について理解する。
5. 泌尿器領域がんに関する標準的化学療法と支持療法について理解し説明できる。また、主な副作用とその対策について説明できる。
6. 前立腺がんのホルモン療法について説明できる。
7. 泌尿器科領域における緩和ケア、オンコロジー・エマージェンシーに対する知識を習得する。
8. 薬学的視点で患者の問題点を抽出し適切なアセスメントを行える。
9. 抽出した問題点に対して、他職種と連携し取り組むことができる。
10. 担当患者の報告を薬学的見地に基づき簡潔にプレゼンテーションすることができる。

# 緩和医療科

1. 緩和医療の概念、がん診療における位置付けを理解する。
2. 緩和医療における薬物療法の位置付けを理解する。
3. 緩和医療における各種ガイドラインを理解し、実地に活用することができる。
4. 患者の抱える苦痛や問題点を、全人的苦痛の観点から包括的に評価できる。
5. 痛み、呼吸困難、咳嗽、悪心・嘔吐、食欲不振、便秘、下痢、倦怠感、排尿障害、睡眠障害、抑うつ、せん妄、終末期の輸液、鎮静、オンコロジー・エマージェンシーについて理解し、適切な薬物療法を提案できる。
6. 緩和医療科のカンファレンスにおいて、他職種と薬剤師の視点の共通点および相違点を理解し、チーム内で各職種と適切に連携をとれる。
7. 緩和ケアチームと主科との診療の違い、コンサルテーションの在り方を理解し、適切に連携をとれる。
8. 終末期の諸症状と死亡に至るまでの過程、望ましい看取りの在り方を理解する。

# 外来

1. 分子標的治療薬や殺細胞性抗がん剤の一般的特徴を説明できる。
2. 一般的な採血結果と化学療法開始基準について説明できる。
3. 現在行われている薬物治療における適切なモニタリング項目を抽出できる。
4. すばやく患者情報を収集し、外来指導を実施することができる。
5. 患者本人や他職種より情報を得ることができ、薬学的観点から自ら抽出した問題点についてアセスメントできる。
6. 各レジメンにおける標準的な支持療法についてのガイドラインを理解し実地に活用できる
7. 悪心・嘔吐、便秘、食欲不振、痛み、オンコロジー・エマージェンシーに対する薬物療法を説明できる
8. 抗がん剤の曝露対策、血管外漏出時の対応について説明できる。
9. スタッフへの報告、連絡、及び相談を適切に行うことができる。

# 胃外科

1. 胃癌の好発年齢、男女比、罹患率、死亡率、5年生存率を説明できる。
2. 胃癌のリスクファクター（喫煙、ヘリコバクター・ピロリ感染による慢性萎縮性胃炎など）を挙げられる。
3. 胃癌の病気分類と予後、治療方針の関連性を説明できる。
4. 胃がんの発生部位と症状を説明できる。
5. 胃癌の治療に影響を与える因子（HER2など）とその検査法を説明できる。
6. 胃癌のTNM分類、「胃がん取り扱い規約」の概要を説明できる。
7. 胃癌の転移が起きやすい臓器と転移がんへの対応を説明できる。
8. 胃癌の術後補助化学療法に用いる代表的なレジメンとその成績を説明できる。
9. 胃癌に対するがん化学療法の副作用とその初期症状、対処法を説明できる。
10. がん化学療法に対する支持療法を説明できる。
11. 胃癌の術後にみられる合併症（ダンピング症候群など）と対症療法を説明できる。